



株式会社 河合塾 マナビス

Cboxの導入により テープレス化と管理コスト削減を実現

USER PROFILE

代表取締役社長：岩田一彦
所在地：東京都千代田区六番町5-14六番町武田ビル
設立：次世代の学びの場を現役高校生に提供する進学支援サービス企業として2006年12月1日設立、2007年4月1日事業開始
事業内容：学習塾の運営、教育映像コンテンツの企画・製作・頒布・配信・販売、進学塾フランチャイズ事業の運営 等
校舎数：230校(直営校舎数：46校、フランチャイズ校舎数：184校)
※2015年4月1日現在

理念

- すべては一人ひとりの生徒のために。
- 最高品質の映像事業 ●マナビス専用収録した高品質な映像授業 ●受験学力の向上を個別に実現する受験生の評価No1といわれるテキスト ●チェックテスト・習得度テストによる理解度確認
 - 自主自立を促す個別サポート ●講座・時間・ペースを選べる効率的な学習システム ●生徒自身による目標設定とアドバイザーの親身で徹底したサポートにより自主自立を促す学習PDCAを実現
 - 河合塾の誇る受験対応力・情報力 ●全国で最大規模の受験生が集う全統模試による確かな受験データ ●大学とのリレーションで得る確かな大学入試情報 ●抜群の合格実績

導入システム

収録 Cbox Sシリーズ



導入前の課題

- 動画コンテンツをテープ保管していたが、保管場所やコスト、コンテンツ管理に問題があった。

導入後の効果

- データ化により、コンテンツ管理が楽になった。
- テープレスで保管場所やコストの削減ができた。
- 将来のHD配信も視野に入れたシステムが構築できた。

保管場所やコストの問題を解決したい

河合塾マナビスは、全国の高校生を対象に、ビデオ・オン・デマンド形式の映像授業を提供しています。全国の河合塾マナビス校舎では、常駐の専任アドバイザーが、生徒のレベルにあわせて受講すべき映像授業を選択し、生徒は自分のスケジュールにあわせて効率的に映像授業を受講することができます。

2012年のスタジオ移転までは、リアルタイムエンコードでWMV形式の動画コンテンツを作成し、それとは別に、素材をDVCPROのテープで保管／管理していました。当時を振り返り、河合塾マナビス教務教材開発部の犬飼氏はこう語ります。『映像授業は、年間約500~1,000講座あります。テープには、長くても1講座分しか

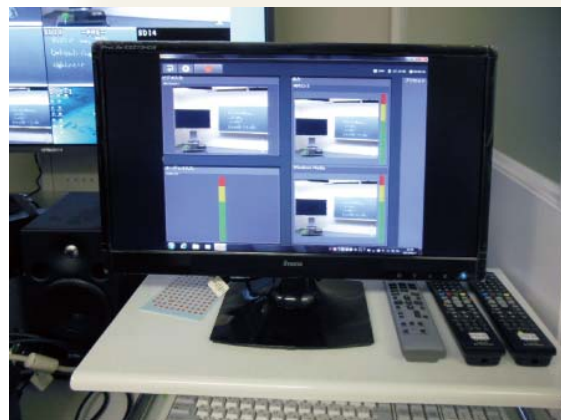
入らないので、テープの保管場所や、テープ代などのコスト負担が非常に大きかったです。これを何とかできないかと、スタジオ移転を機に考えていました。』

リアルタイムに複数のフォーマットで映像が作成できる

そんな時に、フォトロンの収録システム「Cbox」に出会い、犬飼氏は導入を決めました。『テープレスを実現できることと、リアルタイムに複数フォーマットで映像コンテンツを作成できることが決め手になりました。保管用のMPEG2形式とVOD用のWMV形式、また将来的なHD化を視野に入れたH.264などのコンテンツを全て同時に作成できる点が、大きな魅力でした。』と犬飼氏は語ります。



学校法人 河合塾 マナビス事業推進本部
マナビス教務教材開発部
教務教材開発チームチーフ
犬飼 剛氏



コンテンツ管理が楽になり、テープや保管場所のコストを削減できた

『Cboxで映像コンテンツをデータ化したことで、テープの保管場所が不要になりましたし、テープ代やラベル作成コストを削減することができました。管理とコストの面でかなり楽になったと思います。』と犬飼氏は語ります。

また、収録自体も簡単に行えるようになって

たと言います。『河合塾マナビスのスタジオでは、普段の授業を再現できるよう、黒板をメインとした授業収録を行っています。これにプラスして、地図やグラフを出せる電子黒板も併用しています。大掛かりなスタジオでなく、コンパクトな設計にし、少人数で収録/制御できるよう工夫されています。Cboxを使うことで、1年間で1,000以上のコンテンツを高いクオリティで作成できました。作成したコンテンツは、まずCboxに保存され、その後、河合塾マナビス各校舎の

サーバで管理しています。』
今後の展望について、犬飼氏はこう語ります。『Cboxがあれば、様々なフォーマットで出力できるので、将来的には配信をHD化(現行VGA規格)するなど、選択の幅が広がりました。今後は、配信を含めたトータルシステム構築を課題とし、HDコンテンツを配信することで、より高画質で効果的な映像を生徒に提供できるようにしたいと考えています。』

■ワークフロー

